

資料 「農業系高校における特色ある取り組み」(活動概要の紹介)

平成 28 年 9 月調査

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
北海道	ニセコ	農業インターンシップ	緑地観光科	余市町のトマト農家と連携して、2 年次における農業コース・インターンシップを泊まり込みで 8 日間実施している。
	当別	高校生フットパス活動	園芸デザイン科	地域の歴史・産業・景観を地域の方々と再発見する散策ツアーを、生徒が主体となって行っている。
	新十津川農業	農業土木工事視察研修	農業・生活科 2 年	近隣で実施している農業基盤整備、暗渠排水整備等の工事を視察し、整備事業の果たす役割や経費、農業生産活動をより高めるための取り組みについて学習している。
		JA 青年部との意見交換会	農業・生活科 2 年、3 年	近隣町村の若手農業者を交えて、地域農業振興に向けての意見交換や農業の魅力を一般市民にどう広げていくのか等意見を交換して、研究活動等に活かして取り組んでいる。
		新十津川小学校 6 学年との食育体験学習	農業・生活科 2 年、3 年	小学校 6 学年と食育学習を実施し、栽培と地域農業の理解、食育を目指し、ヤーコン、スイートコーン、サツマイモ、インゲン、水稻、ダイズの栽培と試食を行い、食への関心と知識を高めている。
	幌加内	「そば」活動	農業科	幌加内町の基幹作物である「そば」に関する学習を学校設定科目として、「そば打ち」を中心に学習展開している。
	旭川農業	旭農レストラン	全学科	学校農場で、農業科学科が生産した農畜産物、それを活用して食品科学科が加工品を作り、森林科学科の木材加工で製作した箸や食器等に生活科学科が調理した料理を盛りつけ、バザーとして提供するファームレストランを展開する取り組みを行っている。
		幼稚園との木育交流活動	森林科学科	地域の幼稚園児を迎え、学校敷地内にある見本林を活用し、季節に合わせて、植樹、枝払い、落ち葉遊び、冬芽の観察、木工品作りと年間 5 回の木育活動を実践している。
	遠別農業	めん羊の飼育・製品開発	生産科学科	めん羊を飼育しており、飼料に本校で栽培したもち米のくず米を混ぜ、肉質の改良を調査研究している。また、羊肉を使用した肉加工品を製造し、町のふるさと納税の返礼品として全国各地へ提供している。
	美幌	びほろ笑顔プロジェクト	生産環境科学科・地域資源応用科	商工会議所・町とともに合同会社を設立。かつて養豚団地があった頃の循環型養豚の実践と、生産物の加工・商品開発に取り組んでいる。一昨年度は豚肉を使った醤油やジンギスカンを開発。今年度は子供たち向けに食育活動を展開したり、豚糞堆肥を使った野菜栽培に取り組んでいる。
		ウチダザリガニの駆除・堆肥化の研究	生産環境科学科・地域資源応用科	地元の川で増殖を続けるウチダザリガニの駆除、ニホンザリガニの保全活動を関連団体と連携し実施している。また、ただ駆除するだけでなく、堆肥として農業生産に有効利用できないか試験を行っている。
		和種ハッカの保全活動	地域資源応用科	かつて世界一のハッカ原料の産地だったという地域の文化を守り続けようと活動している。和種ハッカの栽培や商品開発、地域内で和種ハッカを花壇に植えるなどの活動をしている。また、子供たちに文化歴史を伝えようと絵本も制作。200冊を幼稚園や小学校などに配布した。
		アスパラガス伏せ込み促成栽培の研究	地域資源応用科	美幌町はアスパラガス生産量全道 3 位の町であり、年間 10 か月間アスパラガスを収穫できる町である。作型のうち冬場に収穫する「伏せ込み促成栽培」が近年行われているが、品質向上、収益増加につなげる研究を大学、町、JA と連携して実施している。
	東藻琴	デジタル人材育成プログラム	生産科学科	本校では、ヤフー株式会社と連携しネット販売のノウハウを学習する「デジタル人材育成プログラム」の授業を行っている。ネット販売についての授業が実施されたのは本校が全国ではじめてである。
中標津農業	計根別食育学校	食品ビジネス科	計根別地域の幼稚園、小学部、中学部を対象とし、食育活動を行っている。トマトやカボチャなど地域で栽培できる野菜を実際に栽培し、栽培管理を通して対象となる学年の発達段階に合わせた食育活動を実践している。	
青森	五所川原農林	GLOBAL G. A. P. 認証への取り組み	全学科	全校から手を挙げた 17 名による認証取得、H27 はりんご、H28 はりんご（2 年目）と米（1 年目）を取得。今後、学習内容に GLOBAL G. A. P. を盛り込む予定
	柏木農業	未来創出りんごプロジェクト事業	4 学科	青森県のりんご産業の活性化を目的に、商品開発や販売・食育・労力軽減などを図るプロジェクトを展開
	弘前実業	法政大学フィールドスタディ	農業経営科	法政大学人間環境学部の金藤ゼミのフィールドスタディに高校生も参加し、共にりんご産業のビジネスモデルを考える機会を得る。
岩手	盛岡農業	さつまいもの蔓をウシの飼料として給与	動物科学科	地元滝沢市の特産化を目指すサツマイモ「クイクスイート」を軸とした循環型農業の構築を目指している。
		酒粕の飼料化	動物科学科	酒造りの際に出る、酒粕を家畜飼料として豚に給与し飼料の高騰化に対応している。
	岩谷堂	鹿踊り部の活動	総合	地域伝統芸能である鹿踊りを継承する目的で創部され、高文連発表会以外にも地域の方々と交流しつつ各種催事でも演じている。
	遠野緑峰	廃棄ホップ蔓から和紙の製作	生産技術科	ビールに使用される毬花以外の廃棄蔓に着目して繊維を抽出し和紙をホップ農家と行政、市民と一体となって製作している。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
岩手	遠野緑峰	有害獣の有効利用	生産技術科	遠野市の鹿の被害は甚大で、本校農場の牧草や作物が食害されている。駆除された鹿から革をなめし付加価値製品の開発をしている。
宮城	宮城県農業	知的財産教育交流学習会	生活科	宮城学院女子大学食品栄養学科平本研究室と連携し、地元の小学生と伝統野菜活用のお弁当作りの試作品作りを実施している。発展的な学習として、パッケージデザイン作りや、お弁当会社との連携により商品化までのプロセスを学習する。
		知的財産教育交流学習会	生活科	東北地区における知的財産教育研究指定校の高校生が集まり、専門教科の垣根を越えて、農業、工業、水産高校で学ぶ生徒がものづくりについて、アイデア創出学習を実施。
宮城	宮城県農業	伝統野菜栽培プロジェクト交流会	生活科	県内私立高校調理科の高校と連携し、宮城県内の伝統野菜の保護活動を展開している。島における隔離栽培から種の採取、韓国との交流による野菜栽培、消費者への商品化、販売、提供など幅広く展開している。
		グリーンツーリズム	全学科	震災以降、仮設校舎で頑張っている生徒の姿を少しでも発信したく、地域の方々をお招きし、心の交流に取り組んでいる。
		収穫感謝祭	全学科	実りの秋、自分たちで栽培した野菜を活用し、芋煮会を実施。日ごろお世話になっている地域のボランティアの方々を招いて交流している。
		スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール	全学科	◇農業科「米の海外輸出への挑戦」◇園芸科「スマート農業の導入による高糖度のトマト栽培」◇生活科「伝統野菜の保護活動」◇食品化学科「地元食材を活用した饅頭の商品開発」◇農業機械科「再生可能エネルギーの活用」
	南郷	フラワーサービスプロジェクト	産業技術科	地域小中学校へ草花栽培の出前授業や、近隣の各関係機関への花壇植栽やプランター設置・装飾等
	石巻北	交流ひろば「とらまい」	総合	月2回程度の水曜日に食農系列で生産した農産物加工品を販売。保護者や地域住民への学校開放の場であり、交流発信基地。
		宮城水産高校との交流	総合(食農系列)	田植・稲刈・かまぼこづくりをとおして、第1次産業を学ぶ両校が「食」について考え、将来の石巻地域を支える人材育成の場。
		兵庫県立高校との交流	総合	兵庫県立佐用高校・兵庫県立古川南高校との合同による草花植栽活動。(仮設住宅へ)
		小学生とのマンツーマン交流	総合(食農系列)	小学校3年生との種まきから加工までの1対1による高校生のマンツーマン指導。(弟や妹のようにカワイイ異年令の交流)
	小牛田農林	たんぼアート	農業土木コース	農業土木の技術を活かしたポイントの設置。
	加美農業	飾り巻き寿司交流	生活技術科	震災復興区東松島産海苔と本校産米を使って作る交流活動。
		加美農教育ファーム	全学科	保育園児から大人までが参加し本校農場を生かして食や命のありがたさを学び合う活動。りんご狩り、搾乳体験、飼育栽培、加工体験、生きもの調査等。
		食の文化祭	生活・農業	地域の食材を持ち寄っての展示販売、試食提供、体験活動を行う。町と共催。
		食育推進事業	全学科	生徒の課題を出発点に講演や研修を実施し、課題解決に取り組む。
学校開放講座		全学科	みやぎ県民大学学校開放講座として本校の農場内で環境や食、農業について小学生から大人までを対象に生徒と共に学び合う活動。	
秋田	大曲農業	ニューファーマーを目指す意見交換会	全学科からの希望者	地域の新規就農者研修生・農業近代化ゼミナール会員との意見交換会。
		「農業の魅力発見」フォーラム	全学科	地域農業の先駆者による、就農意識を啓発するフォーラム。
山形	村山産業	マラソン大会でのエイド提供	農業経営科、農業環境科	学校設定科目「特産品開発」において、東根市6次産業化推進協議会と連携し、東根さくらんぼマラソン大会に参加されるランナーの方々へ提供するエイドの考案・製造を行い、地元の特産品である果樹を使った冷菓の提供を行った。
		環境保護の啓発活動	農業経営科、農業環境科	農業部バイテク班では、絶滅危惧植物の保護・増殖に関する研究を実施しており、オキナグサの栽培講習や植物の無菌操作体験などを通じた環境学習の出前講座を通して、県民の環境保護に対する意識啓発を図っている。
	置賜農業	台湾交流	生物生産科	学校産米を台湾に持って行き試食会を実施した。その縁で28年3月、台南大学付属高級中学と姉妹校を締結した。
	新庄神室産業	村花の保全と普及	生物生産科・生物環境科	村花となっているミチノクヒメユリの増殖と村民への普及活動をおこなっている。
	左沢	農業体験交流学習	総合学科	①山形県立霞城学園高校IV部との交流(年3回実施) ②山形県立楯岡特別支援学校大江校高等部との交流学習(年3回実施)
東京	農産	世界ラン展への出展	園芸デザイン科	今年度で5回目。造園部の生徒を中心に、デザインから製作まで生徒自身が行う。前年度は奨励賞。
		日比谷ガーデニングショーへの出展	園芸デザイン科	3年生で「造園技術」及び「課題研究」の授業の中で取り組んでいる。ガーデン部門への出展。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
東京	農産	三河島菜の栽培	園芸デザイン科	荒川区と連携して、江戸野菜「三河島菜」の栽培を行い、12月に日暮里マルシェで販売を行っている。
	大島	椿を活用した地域振興	農林科	伊豆大島における産官学連携を通じた本校椿園の国際優秀つばき園の認定と、椿油や椿油入りラー油など特産品づくり。
神奈川	中央農業	地域との連携	農業科全科	アイガモ米の生産や花育活動など実施した。
		地域との連携	農業科全科	中学校2年生への公開講座を実施した。
神奈川	中央農業	地域との連携	農業総合科	製菓専門学校と連携し学校では実施できない和菓子などの授業を実施した。
		地域との連携	園芸科学科	地域の幼稚園、小学校、中学校の卒業式の飾花指導を通じた連携事業を展開している。
		地域との連携	園芸科学科	野菜ソムリエによる特別授業を実施した。
	吉田島総合	演習林を活用した環境教育	総合学科	学校が所有する演習林をフィールドに間伐や下草刈体験や専門家による講演会を展開している。
		環境に配慮した農業経営	総合学科	農場で演習林で産出した間伐材由来の木質ペレットを活用した温室栽培を行なっている。
		地域との連携	総合学科	地域の特産品である茶摘・製茶体験を行なっている。
		地域との連携	総合学科	地域の幼稚園、小学校、中学校の卒業式の飾花指導を通じた連携事業を展開している。
		地域との連携	総合学科	生徒による小中学生対象講座(果実の収穫体験、菓子作り体験)を開催している。
地域との連携	総合学科	県立生命の星地球博物館にてバイオテクノロジー体験講座を展開している。		
花育	総合学科	専門家による華道を通じた心の教育活動を展開している。		
埼玉	熊谷農業	アイス製造販売	生物生産工学科	学校でアイス(ジェラート)をつくり、地域の献血ルームにて血液提供者へのサービス。
千葉	清水	ソーラークッカー活用	食品科学科	環境に配慮した調理の実際と、災害時や途上国における、食の安全の確保を考える。
	成田西陵	ニホンミツバチ保護活動	生産技術科	ニホンミツバチの保護活動。また、ナノハナやヒマワリを栽培し、蜜源や景観形成として活用。
	茂原樟陽	茂原駅の花いっぱい運動	生産技術科	市民が利用する茂原駅周辺に生徒達が丹精込めて栽培した草花を、地域の方と植栽活動を行っている。
		カーネーションフェア	生産技術科	本校草花コースで丹精込めて栽培したカーネーションを近隣住民や生徒・職員に販売を行っている。
	上総	農場生産物を君津市ふるさと納税返礼品	園芸科	今年度より本校生産物の中から夏のメロン、冬のシクラメンとトマトがふるさと納税の返礼品(数量限定)に加えられた。「高校生が育てた農産物」が返礼品となる例は全国的にも見当たらず、本校の取組のアピールにもつながるものと期待される。すでに、メロンは予定数量に達した。
		花いっぱい運動	園芸科	平成10年度から、アクアライン海ほたるPA、君津中央病院、君津市役所、地元公民館に、季節の花々のプランターの設置や花壇への植え付けを実施している。
	君津青葉	地元作り酒屋との連携	総合学科農業系列	学校で栽培した酒米(総の舞)を地元づくり酒屋へ提供。
	鶴舞桜が丘	伝統野菜の栽培	食とみどり科	野菜コースのプロジェクト研究において、地域の伝統野菜「加茂菜」に関する栽培と活用について実践中。
茨城	水戸農業	現場実習	農業経済科	2年次に就労意欲の育成やコミュニケーション能力を養うことを目的として、パパイヤ農家(やぎぬま農園)とJA常陸那珂直売所の協力を得て、現場実習を行っている。農産物流通への理解も深められている。
		ふるさと納税返礼品提供	農業科	那珂市のふるさと納税の返礼品として本校産の米や乾麺を提供し、学校農産物のPR活動を行っている。
	石岡第一	いしいちぶどうサイダー	園芸科	有機JAS認証圃場で栽培した廃棄ぶどうを活用、石岡市及び民間企業と共同実施。
		即戦力の人材育成	造園科	地域で活躍される樹木医・造園マイスターなどの人材資源を活用し授業を計画的に実施し、座学で学んだ知識を深化させ地域社会の即戦力となる人材の育成を目指す。
	真壁	真壁のひなまつりへの参加	農業科・環境緑地科・食品化学科	桜川市真壁地区で毎年開催されるイベントには、一カ月に10万人を超える人が訪れる。会期中の会場で農産物や加工品を販売する他に、体験コーナーなども設置。全校生徒で清掃活動も行う。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
茨城	真壁	6次産業化への取り組み(地元企業との連携)	農業科	本校農場産のコメを使い、地元蔵元で純米酒を造る。酒の仕込みから販売までをインターンシップとして行う。また、ナシやハーブを地元レストランが食材として利用。イチゴは和洋菓子店が菓子里に使用。
栃木	小山北桜	あげびざの開発・販売	園芸科学科	開発したあげびざを社会福祉法人の企業と連携し、販売している。
		かんぴょうスピーカー用の品種別夕顔栽培	園芸科学科	商工会議所と連携し、スピーカーに向く新しい形のかんぴょうを見つけるため、世界各地の夕顔を栽培している。
		ヤナギ・セイタカアワダチソイ除去作戦	造園土木科	ラムサール条約を締結している渡良瀬遊水池の保全活動を定期的に行っている。
栃木	小山北桜	大沼の彼岸花の植栽	造園土木科	地域の環境保全活動のため、毎年実施している。
群馬	勢多農林	SPH 事業	植物科学科・バイオテクノロジー科・動物科学科・緑地土木科・食品文化科・グリーンライフ科	今年度より SPH 事業がスタート。研究開発課題は、「勢農ブランド確立への挑戦！ 未来の農業を拓く専門人材育成プログラムの開発～ 地方創生や成長産業としての農業 を担うための資質・能力の育成～」として研究することになる。
	利根実業	野生動物被害対策	生物生産科	ニホンジカやイノシシ等の大型哺乳類より、圃場被害を防ぐ研究をしている。
	伊勢崎興陽	世界遺産とのコラボ	食を科学する系列	伊勢崎市にある世界遺産「田島弥平旧宅」でのイベントで地元食材を使った食品加工品の試食・販売。
	中之条	地域交流	生物生産科	中之条町おいしい米作り研究会と連携し、栽培技術交流や地域の小中学校、老人福祉施設、地域の自治体と花を通して地域作り。また、中小家畜や小動物を活用し、園児・小学生との交流やイベントに参加。
		地域連携	環境工学科	吾妻農業事務所農村整備課、美野原土地改良区と連携し、美野原地区の農業用水路・農業道路を含めた農場一帯の地形図作成と水路管理ベースを測量技術を活用して作成。
	大泉	保護活動	グリーンサイエンス科	渡良瀬遊水池における絶滅危惧植物の保全活動。
山梨	農林	専門学校山梨県立農業大学校とのカリキュラム連携	システム園芸科	専門学校山梨県立農業大学校との連携した授業の取り組み。人材育成のための連携による継続教育を推進し、高校と農業大学校の5カ年をおとした地域の担い手育成のためのカリキュラムを実施している。(学校設定科目「地域と農業Ⅱ・課題研究」)
静岡	田方農業	共生共育	動物科学科・食品化学科・ライフデザイン科	特別支援学校、保育園等と授業を共に行う。
		有機農業	生産科学科	有機JAS認定に伴う有機栽培の学習。
	富岳館	被災地の緑化活動	生物生命系列	独自のエコ資材を考案・活用し、被災地の緑化活動に取り組んでいる。
		伝統野菜を利用した地域の活性化	生物生命系列	地域の伝統野菜である「白糸とうがらし」の栽培から商品開発に取り組んでいる。
	静岡農業	食育	食品科学	子供会へのパン、菓子、ケーキ、麺づくり教室。
		動物ふれあい訪問活動	環境科学	愛玩動物を飼育し、地域小学校、特別支援学校等を訪問し交流活動を行う。
		茶手揉み講習	生産流通	静岡市茶手揉み保存会の講師より講習を受け、茶手揉み技術を習得し伝統技術の継承を図る。
		松葉プロジェクト	食品科学	三保松原の松葉の有効活用プロジェクト研究、松葉商品開発、環境保全活動など産官学協力し、地域貢献活動に取り組んでいる。
	藤枝北	北高ストア	総合学科	食品サイエンス部を中心として新商品開発を行い、地域の活性化へとつなげる活動に取り組んでいる。
	磐田農業	河川・池の環境整備活動	環境科学	学校近隣の今之浦川とひょうたん池の環境整備活動を行政やNPOと連携し、定期的に行っている。
		校内バラ園一般公開	環境科学	150種類、1500株のバラを栽培管理し、5月、11月に一般の方々に公開し見学していただいている。
東日本大震災支援活動		生産流通	宮城県名取市閑上地区の朝市において販売活動等とおし復興支援活動を行っている。	
新潟	長岡農業	専門高校間・地域連携活動	生徒会・食品科学同好会	長岡市内専門高校3校連携による模擬株式会社「長岡CAT」の運営をベースに、それぞれの得意分野を生かして長岡から県内外に発信できるような商品開発と地域産業に貢献できるオリジナル商品作りを進めている。
	高田農業	オンリーワンスクール新潟未来プロジェクト	食品科学科・生物資源科	(テーマ)地域と連携した商品開発をおとした6次産業化の推進(目標)地域と連携し、地元食材を使った食品を開発し、地域の特産品を開発する。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
新潟	佐渡総合	世界農業遺産(GIAHS)活動	総合	2011年、佐渡は世界農業遺産に登録された。しかし、その内容は市民に伝わってはいなかった。本校は佐渡市と連携し、テーマ「トキと共生する佐渡の里山」について調査を行い、市民への講演活動や広報活動、小・中学生用DVD作成を行ってきた。平成28年度は、全国棚田サミットでの事例発表を行った。
富山	入善	商農校連携のとりのくみ	農業科	地域の商工会、農家、高校が連携して耕作放棄田の再生事業を立ち上げ、トウガラシの栽培などを行っている。
	南砺福野	エコビレッジ活動	農業環境科	地元南砺市役所エコビレッジ推進課と連携した、省エネ・地元地域創造・活性化活動の推進に取り組んでいる。
石川	七尾東雲	里山環境保護活動	総合経営学科	七尾市八田地区と百海地区の2カ所で地域の方々と協力して棚田の復元活動や菜の花栽培・無農薬・有機肥料栽培などを行っている。また栽培したお米で全国お米コンテスト等にも参加している。
		園児と園芸での交流	総合経営学科	近隣の保育園児や幼稚園児とトウモロコシやサツマイモの収穫体験や学校演習林の散策などの交流活動を行っている。
	翠星	農業高校テーマパーク『おい Day 翠星』の開催	総合グリーン科学科	即売だけでなく、体験、グリーンアドベンチャーなど「学校テーマパーク」を企画し『おい Day 翠星』を実施している。
福井	若狭東	SPH活動	地域創造科	薬草栽培から商品化に向けて地域や研究機関と連携し研究している。
		SPH活動	生活創造科	薬膳料理について専門家から意見をいただいた。
長野	須坂園芸・須坂創成	「風さやか」がおこす稲作の新しい風	農業経済科・園芸農学科	「風さやか」は平成24年に長野県農業試験場で誕生した新しい水稻品種である。この新品種を地域の農家や全国の消費者へ普及する活動を継続している。
	木曾青峰	山を歩く会	森林環境科	9月第2土曜日に一般参加者と学校演習林の散策会を行なう。
		伝統野菜作物研究会	森林環境科	伝統野菜・作物を農家に取材し交流を進めながら栽培プロジェクトを行ない、まとめの発表会を行なう。
		連携授業	森林環境科	建設業協会木曾支部の協力で、刈り払い講習会、丁張実習、CAD実習を行なう。
		連携授業	森林環境科	木曾幼稚園と栽培学習交流を行なう。
		城山環境整備	森林環境科	間伐材から製材レベンチを製作、城山遊歩道に設置。
愛知	安城農林	ふれあい田んぼアート	全学科	安城市農業公園デンパークにおいて、安城市民参加による田んぼアートへの協力および農産物販売。
		安城市わくわく農業体験	園芸科 他	安城市民を対象に、校外圃場(デンパーク農場)でのウメの収穫体験とウメジュース作り、校内圃場において、ブドウの収穫体験とお楽しみ体験を生徒が指導者となり展開。
	稲沢	ふれあい農園	園芸科	毎年、地域住民の農業未経験者20名対象に、園芸科生徒が露地野菜の栽培管理方法について、教え、交流した。
		いきいきマーケット	園芸科	毎週水曜日、本校で当日収穫した野菜、草花、果樹等の農産物を、地域住民に直接販売する。
		薬用植物明日葉プロジェクト	生活科学科	平成24年度開始の稲沢地場産野菜「明日葉」のLED水耕栽培、明日葉加工品商品開発プロジェクト活動。
		稲わらの再利用による米俵等の作成	園芸科	作物専攻生による稲わら再利用活動として、米俵職人の方からご指導を受け、生徒が作成している。体育祭で、米俵を使用した障害物リレーを実施した。
	新城東 作手校舎	サギソウの調査研究	人と自然科	サギソウは絶滅危惧種に指定され、旧作手村の花であり、旧作手高校の校章でもあった。その意思を引き継ぎ、自生地での調査研究、無菌播種技術での増殖、地域の中学校への出前授業など地域に根ざした活動をしている。
	岐阜	岐阜農林	SSHフィリピン研修	全学科
官学連携事業			環境科学科	本県市教育委員会より依頼を受け、測量技術を活かした古墳調査を協働で行い、文化遺産登録に向けた取り組みを行っている。
岐農創生プロジェクト			環境科学科	流通科学科と協働で、水田魚道を活用した環境保全型農業と特別栽培米の生産に向けた取り組みを行っている。
地域特産品の研究			園芸科学科	亜熱帯果実の「マンゴー栽培」に挑戦。魅力あふれるフルーツ栽培を地域へ発信している。
アニマルセラピー活動			動物科学科	老人介護施設に出向き、ウサギやモルモットなど小動物を用いたふれあい活動を行った。
障害者乗馬			動物科学科	障害者を高校に招き、木曾馬の乗馬を通した動物介在活動を行う。
加茂農林		牛の碁盤乗り	生産科学科	生産科学科が中心であるが、部活動として他学科も参加し、牛を碁盤の上に乗せる調教を行っている。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
岐阜	恵那農業	世界らん展日本大賞	園芸科学科・園芸デザイン科	東京ドームで開催される世界規模のイベントに出展。
		へボの飼育・食文化の伝承	園芸科学科	クロスズメバチの巣の採取、飼育とその食文化の伝承。
		次米みのり祭り	園芸科学科	天武6年にお米が献納された史実に基づき、町おこしのイベントに積極的に協力。田植え、抜き穂、献納踊り、薬師寺への奉納を実施している。(今年で4年目)
	郡上	ドイツでの森林育成・保全および野生動物の管理・資源利用に関する研修	森林科学科・食品流通科	9月6日～11日に生徒代表3名をドイツへ派遣し、国際的な視野で学んだ。 ①ドイツの先進的な森林・生態系管理及び林業の実際に触れる。 ②ジビエの流通・料理を通じた野生鳥獣の管理や利用について学ぶ。
		知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業 導入定着型採択(平成27年度～)	食品流通科・森林科学科	新生郡上高校ヨーグルトの商品開発・商標登録を実践課題として体系的な知財教育に取り組み始めた。
	阿木	地域の加工場	生産科学科	地域の茶工場として、近隣茶葉生産農家の製茶を行っている。
三重	四日市農芸	ISO14001認証取得校		三重県立四日市農芸高校においては、環境保全及び環境教育の重要性に鑑み、2002年11月18日に全国の農業高校としては初めて、ISO14001認証を取得しました。また、その際に環境理念及び環境方針を制定し、その後数次の改定を経て、今日に至っている。
	相可	バイオマス産業の町づくりに貢献		バイオマス関係の企業誘致に相可高校が協力。
滋賀	八日市南	政所茶の復興に関する研究	食品科	東近江市(旧永源寺町政所)に安土桃山時代より在来種の茶木を栽培し、加工する「政所茶」が地域の特産品としてある。しかし近年、少子高齢化によりお茶栽培の農家が減るなか、栽培から加工販売と6次産業化をねらった商品開発に着手している。
		ムラサキの栽培と商品開発に関する取り組み	農業科	平成17年、1市7町が合併し東近江市が誕生する。その当時に制定された市の花「ムラサキ」は、絶滅危惧種に指定される希少な植物であった。現在、本校でムラサキの栽培技術を確認する研究を行うとともに「ムラサキ」の染料を活用した商品開発に取り組む。
		地元里山を舞台とした環境教育活動の展開	花緑デザイン科	平成19年より東近江市能登川地区にある「猪子山」の環境保全に関わる地元小学生に環境教育活動(ESDプログラム)を活用したコーディネートの開発と高校生が先生役として取り組む実践的な環境保全活動を展開している。
京都	木津	ABCマーケット	システム園芸科	本校に併置されている情報企画科(商業科)と協同で、定期的に直売所を開催し、生産物の企画運営から販売までを行った。
		TVF講座	システム園芸科	地元住人の方から公募し、年間を通じて授業に参加し、生徒が指導助言を行いながら、栽培技術を学習する。
	桂	TAFS	園芸ビジネス科・植物クリエイト科	桂高校の課題研究授業は、TAFS と呼ばれ12のゼミ研究室で構成されている。TAFS は、学年(2年・3年)学科をまたがり、各研究室最大16名が参加し、授業は同時開講されている。TAFS は SSH 指定の根幹であり、放課後も含めて活動する研究室があり、多くの成果を残している。
	須知	ウィードの森	食品科学科	公園管理コースの選択制とを中心に学校林の保全に取り組んでいる。
		正月用葉ボタン販売	食品科学科	園芸専攻の生徒が1000株の葉ボタンを一般の人に圃場で販売した。名物行事。
		冬のセット販売	食品科学科	味噌・ヨーグルト・ハム、ソーセージ・クッキーの生産加工品と、海洋高校の鯖缶詰をセットにして限定200セットの販売。
	福知山	農業科家政科コラボ実習	農業科	農業科の生産物を使って家政科とコラボし、調理実習や加工品の開発を行う。農業科で生産物を栽培する中で規格外品等の廃棄問題について考え、対策方法として、規格外品の有効利用を实践することや、環境に配慮した調理(食材を無駄なく使う、資源を大切に使うなど)と福知山市の取り組みである、ごみの減量化「3きり運動」を实践し、持続可能な生活を送る技術と態度を身につける。
	久美浜	松林再生プロジェクト	生産科学系列	地元の松枯れが激しいとお話をきっかけに松林再生のボランティアに毎年数回参加している。また圃場でマツを播種から育苗し、松苗を浜に定植するなどの活動を継続して実施している。
大阪	能勢	プロによる実践的指導	総合	地域の技術者や企業技術者を招き、食品加工(ソバ、漬物、黒米)、フラワーアレンジなどの実践的な技術指導を受けた。
		能勢高ブランド品の開発	総合	昨年度より地域活性化に取り組む地元の団体と連携し、農場生産物を用いたピザやブドウジャム、黒米を生地に加えた酒まんじゅうなどを製造し、文化祭において同団体の出店する「能勢高マルシェ」で一般に販売した。
		地黄湿地保全活動	総合	授業において、緑のトラスト協会と連携し、地黄湿地の保全活動に取り組んだ。現地では定点観測を実施し、植生分布図を作成した。また、大学教員の指導のもと、まとめやふり返りを行った。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要	
大阪	能勢	生産物販売実習	総合	大丸梅田店において、2日間にわたり、本校紹介および農場生産物の販売を行った。	
		犬のしつけ訓練	総合	授業において、地域の動物保護施設に出向き、犬の訓練士による指導のもと、犬のしつけ訓練の実習を行った。6回の実習の後、実技テストによる評価を受けた。	
	園芸	収穫体験	フラワーファクトリ科	地域を中心に抽選で選ばれた方々を対象として、生徒が旬の野菜の収穫方法・食べ方などを説明し、参加者の方々に実際に収穫してもらう。夏と冬の二回開催しており講評を得ている。	
	園芸	定期市開催	フラワーファクトリ科	月に1回本校において、新鮮な野菜・果樹、切花やフラワーアレンジの販売会を行なっている。リピーターの方が多く、毎回70名程度の参加がある。	
		高校生による花壇展示	フラワーファクトリ科	JR大阪駅 時空の広場「フラワーアートミュージアム2016」において会場の花壇を制作した。	
		高校生フラワーアレンジバトル	フラワーファクトリ科	JR大阪駅 時空の広場「フラワーアートミュージアム2016」において開催されたフラワーアレンジメントの技術とデザインを競う大会に出場。	
		日本菊花全国大会	フラワーファクトリ科	日本菊花会主催で菊の栽培技術を競う学生対象でなく全国から2000人がエントリーする一般の大会。FF科菊鉢物班3年生が三本立立ての部で国華園賞、2年生が福助花壇の部で優秀賞を受賞した。	
		小学生を対象とした栽培体験	フラワーファクトリ科	北豊島小学校の児童を対象にジャガイモおよびサツマイモの植え付けから収穫まで栽培体験学習を行なっている。	
		技能五輪大会出場	フラワーファクトリ科	青年技術者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会。フラワー装飾の部に初出場した。	
		技能五輪大会出場	環境緑化科	青年技術者の技能レベルの日本一を競う技能競技大会。造園の部に出場。今年度も入賞を目指し、一生懸命準備している。	
		バタフライガーデンの普及活動	環境緑化科	バタフライガーデン用植物の栽培に取り組み、ポット苗を企業や公共団体に提供するとともに、制作にも協力している。平成26年度は伊丹空港、妙見山、箕面昆虫館、彩都に苗提供またはガーデン制作を行なった。	
		SSHオーストラリア共和国アグリサイエンス海外研修	バイオサイエンス科	H27年3月4日～12日オーストラリアクイーンズランド州にホームステイし、ロッキー高校やクイーンズランド大学で研修した。また、自分たちの研究内容を英語でプレゼンテーションした。	
		枚岡樟風	生駒山系における国蝶オオムラサキの保全活動	総合学科	生駒山系において、大阪府の準絶滅危惧種に指定されている国蝶「オオムラサキ」の保全活動を枚岡公園事務所と連携して行った。また、地域の商店街や幼稚園で自然保全に関する啓発活動を行った。
	野菜販売と地域活性化イベント		総合学科	模擬NPO法人を設立し、特別栽培農産物認証を取得した野菜を地域商店街、地域レストラン、行政施設、グランフロント大阪「旬食マルシェ」で販売した。売上金は地域イベントを企画し行い、地域活性化を図る。今夏は、スイカ割り、流しそうめんを行い、地域の子どもから大人まで80人が参加した。	
	花いっぱいプロジェクト		総合学科	大阪府八尾土木事務所と連携して栽培した花苗を、地域の商店街で配布した。また、枚岡公園事務所と連携し、生駒山枚岡公園内の花壇にも定植した。	
	日比谷花壇スノーマンプロジェクト		総合学科	ヒョウタンを栽培し、株式会社日比谷花壇主催のスノーマンプロジェクトに提供した。幼稚園や老人ホームなどでヒョウタンスノーマンづくりのワークショップを企画して一緒に行った。	
	幼稚園食農教室		総合学科	地域の幼稚園児を学校に招き、サツマイモの栽培体験を行う。定植、除草、ツル返し、収穫と一連の作業に携わってもらい、農業の楽しさ、大変さを学んでもらった。	
	農芸	農芸ポークカレー	資源動物科	「大阪産(もん)」認定の本校のブランド豚「農芸ポーク」とハイテク農芸科で生産した野菜を材料に企業連携により商品開発した。	
		百年の丘での動物展示	資源動物科	動物園デザイナー若生氏設計による日本初となる一般公開された動物展示場を運営した。	
		高校生カフェ	食品加工科	校外のショップにて1日カフェを運営した。	
		知的財産・企業家教育	ハイテク農芸科	「知的財産に関する創造力・実践力・活動力開発事業」の研究指定及び展開型校として採択された。	
	貝塚	幼稚園交流授業	総合	春から秋にかけて園児を圃場に招き播種～管理～収穫まで6～7回実施した。	
		花いっぱい運動	総合	近隣駅(南海貝塚駅)近くの商店街・市役所への花苗の提供と植栽した。	
	兵庫	篠山東雲	地域資源を有効活用	地域農業科	本校では、近年急増している「放置竹林」に焦点を当て、竹を再生可能な資源として捉え、これまでにない活用法を確立するための研究を行っている。現在は、家畜飼料・バイオマスエネルギー(水素)・堆肥化等を行っている。
		佐用	小学生農業学習・体験交流支援	農業科学科	小学生の農業学習・体験交流支援として、サツマイモ、イネ、ダイズの栽培をはじめ、自然学校の農業体験プログラムの指導を学科生徒が主体的に実践している。
			地域特産品栽培技術の継承	農業科学科	過疎、高齢化により生産者が減少している、地域特産品「あさぎり茶」「自然薯」の栽培技術を継承し商品化と後継者育成を目指す。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
兵庫	佐用	伝統工芸品紙すき技術の継承と研究	農業科学科	皆田和紙保存会と連携して和紙材料の研究、伝統工芸品「皆田和紙」の紙すき技術の継承を行っている。
	但馬農業	農業高校だからできる息の長い東日本大震災復興支援	農業科	震災が発生した年から、12 月にはシクラメン、3 月にはボリアンサを4年間継続して仮設住宅に届けている。
	氷上	学校設定教科「丹波学」の設定	営農、食品加工、生活科、(商業科)	本校は、商業科を含む4つの学科を設置している専門高校である。この中で、地域の特産物などを用いた6次産業化を進める中で、地域の色々な業種の方を講師としてお呼びし、商品開発の流れを学習する科目(3年次の「起業経営」:2単位)と、それを進めるために、まず地域の現状や特徴などを学ぶ科目(2年次の「地域未来」:1単位)を設定している。最終的には、4つの学科が融合し協力しながら、グループワークなどを行いながら「新たな商品」を開発して行く。
	山崎	地域貢献活動	森林環境科学科	里山整備を行うことで、地域の子供から高齢者までに体験の場を提供し、自然とのふれあいや炭焼き等の伝統農村文化を継承する活動に取り組んでいる。
奈良	磯城野	直売所「しきの 彩(いろどり)の運営	生産科学科(農業科学科・施設園芸科) バイオ技術科 環境デザイン科	起業家精神の育成を目的として、模擬株式会社を設立し、毎週火曜日の放課後に学校生産物の販売をしている。
	御所実業	国連生物多様性の10年日本委員会認定連携事業(第1弾9)	環境緑地科	2012 年から継続。学校設定科目「環境科学」を軸にした地域の生物多様性保全の取り組み。
和歌山	有田中央	高校生校内模擬カンパニー「アグリ☆スマイル」	総合	農業系列生で組織する会社で、地域特産品の栽培から商品開発・製造・販売までの6次産業化に取り組み、地域の中核を担う人材となることを目標に頑張っている。
	南部	スイーツ講習会	生産技術科	町内のパティシエを招へいし、ケーキ作りの指導をしていただく。
	熊野	上富田町フラワータウン交流会	総合学科	花作りをとおして小・中・高校生が地域の高齢者の方々と交流を深め、自然や人との触れあいをとおして思いやりや優しさの心を育てる。
		田植えと稲刈り交流会	総合学科	上富田町立市ノ瀬小学校との田植え交流会と稲刈り交流会。
	紀北農芸	熊高産農産物販売所	総合学科	本校で栽培された農産物を農業クラブ員達が火曜日と金曜日の午後4時から販売体験をとおして地域の方々とコミュニケーションをはかる。
		丸尾池環境保全	施設園芸科・環境工学科	丸小池改修に係わる環境保全。(絶滅危惧種 キキョウ・ヒメタイコウチ)
		フラワーロード	施設園芸科	通学路住民の方々に草花栽培を指導し、通学路にプランターを置いていただく。
鳥取	鳥取湖陵	未利用地域資源の活用プロジェクト	食品システム科	近くの海岸漂着ゴミを回収することによって地域環境保全に貢献すると共に、採集した海藻を有機質肥料として栽培に活用している。
		湖陵マルシェ	食品システム科・緑地デザイン科	土曜日授業の一環として、JA 直売センターに生産品を持ち込み、対面販売することによって生産・加工・販売の学習を完結している。
	倉吉農業	ジビエ肉の商品化	食品科	鳥獣害の被害が拡大する中、ジビエ肉の商品化への要望が強まっている。本校は、関連機関と連携し、イノシシ肉の商品化を検討した。ウインナー、ハム、ジャーキーやレトルト商品を開発中である。
		校地をアスファルト舗装	環境科	校地内の未舗装部分をアスファルト舗装する取り組みをしている。土木業者の協力のもと、パワーショベルで砂利を掘削し、地中10cmに再生コンクリートを敷き詰め、アスファルト合材を路盤の上に敷き、校内の環境を整備している。
		全日本ホルスタイン共進会へ向けて	生物科	酪農後継者の育成につなげようと「全共」への出場を目指し、日頃から、乳牛の育成に努めている。リードマンの果たす役割が大きいので、牛の引き方の技術を磨いている。また、牛の見方や毛刈り講習会へも参加している。
	日野	福祉そば打ち、餅つきボランティア活動	総合学科	旧学校の農業学科から行っていたの取り組みで、年末に地域における独居の高齢者宅、特別養護老人ホームに、農業科目を選択した生徒が手作りし、生徒会執行部が配布するボランティア活動を継承している。
岡山	高松農業	高農環境を考える会	農業クラブ専門部会	岡山市と連携し、平成 15 年度より絶滅危惧種「スイゲンゼンタナゴ」の保護・調査活動に取り組んでいる。平成 26 年度に開催された ESD 国際会議岡山大会にも参加した。
		郷土芸能部	農業クラブ専門部会	「あつ晴れ! おかやま地域文化奨励賞」を高校生としては県内初めて受賞。倉敷天領太鼓の流れを組んで長年地域に伝承されている最上太鼓の公演活動に取り組んでいる。
		合同会社高農くすのきカンパニー	起業学習活動としての取組	合同会社高農くすのきカンパニーは、起業学習の一環として平成 27 年 1 月に設立した。農家や企業と連携し、農業6次化の実践的な学習をする。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
岡山	新見	千屋牛の伝統調教技術の伝承	生物生産科	千屋牛の伝統調教技術として、牛の基盤乗りを行い、地域の祭事等において披露をしている。
	興陽	農業女子プロジェクト	農業科	年間3回程度、農業女子の方々と一緒にマルシェを行い交流をしている。その中で今春、一人ではあるが就職させていただいた。
	真庭	甘食プロジェクト	食品科学科	地元のシンボルである旧尋常小学校で開催される「なつかしの学校給食」に参加する観光客への土産品開発の依頼を受け、地元食材で甘食を開発・販売し地域活性化に協力している。
	高梁城南	キャンドルナイト in 高梁	環境科学	高梁市内の高校・大学に呼びかけ、廃油キャンドルを作成・点灯する環境イベントを協同開催。今年で8年目を迎える。
広島	西条農業	西農ポークの開発	畜産科	酒所西条において、清酒製造の副産物である酒粕を飼料とし、放牧飼育を行って、高品質の豚肉を生産してブランド化に取り組む。
	世羅	せら梨ブランドを守るプロジェクト	農業経営科	地域の大型観光農園、役場と連携し、年間を通して農業経営科の全生徒が世羅町産を牽引してきたせら梨について学ぶプロジェクトである。農園実習を通して、地域農業への理解を深め、「担い手」づくりにつなげる。
	沼南	イグサプロジェクト	園芸デザイン科	“備後畳表”に関わる歴史と文化・技術を後世に受け継ぐために、畳表の原材料となるイグサ“せとなみ”の栽培を行っている。
	油木	ナマズプロジェクト	産業ビジネス科	耕作放棄地の有効活用として、ナマズを養殖し地域の特産物にしていくという活動である。
		ミツバチプロジェクト	産業ビジネス科	耕作放棄地を開墾して花畑を作り、ミツバチを育てて蜂蜜を販売するという地域活性化に取り組んでいる。地域の方にも技術を伝え地域にも広がっている。また、ミツバチの飼育技術を活かし、東日本大震災で被災したイチゴ農家を支援するため、自分たちで育てた交配用ミツバチを送る支援活動を行った。
ニカワプロジェクト		産業ビジネス科	獣害の被害の大きさから、駆除されるイノシシの数が1000頭を超えた神石高原町で、その多くが食べられることもなく廃棄処分されていることを知り、日本の文化財補修で使われている動物の皮から作られる膠(ニカワ)をイノシシの皮からできないかと実験を始めました。膠は墨汁を作るときにも使われ、立ち枯れの赤松を燃やし煤を作り、膠とあわせて、墨汁を生産できるようになりました。	
庄原実業	田んぼアート	環境工学科	平成28年度、耕作放棄地された農地を元の水田に戻し、田んぼアートに取り組む。庄原市のマスコットキャラクターの「キョロやまくん」を描き、8月11日から13日まで一般公開した。この取り組みは、一般社団法人庄原青年会議所主催の高校生企画力コンテストに応募し、グランプリに選ばれ、実現したものである。本校環境工学科の生徒以外に、庄原青年会議所の方や県立広島大学の学生の協力も得た。	
山口	田布施農工	酒類醸造	食品科学科	本校では、全国で唯一となる清酒醸造を行っている。現在、食品科学科の授業以外でも、有志の生徒による酒造蔵部(しゅぞうくらぶ)が、清酒醸造を学んでいる。また、昨年度冬より新しく「どぶろく」の試験醸造も開始した。
		特産品づくり	食品科学科	地元の町や企業と連携し、特産品づくりの取り組みを行っている。現在、田布施町特産のいちじくを利用した焼き菓子のレシピを開発している段階である。
	山口農業	小学生との交流学习	生物生産科	近隣小学校1～5年生との農業をとおした交流学习実施。3年生全員が支援者として携わる。
		ジャム原料の確保	食品科学科	JAや農業試験場等と連携し、規格外生産物を利用したジャム製造実施。原料確保からジャム製造までを生徒が行っている。
		特産物を生かした加工品づくり	生活科学科	農業実習で栽培したヤマノイモを原料とした饅頭づくりなど行い、行事等で地域に広めている。
		目指す進路に応じた研修	環境科学科	学科内で目指す進路に応じた3年間の研修計画を作成し、校内外研修・資格取得指導を実施。
	宇部西	七草行事	総合学科	春の七草を栽培し、販売している。三十年以上続く伝統行事になっている。
大津緑洋	直売所の運営	生物生産科・生活科学科	総合実習の時間に、校内にある直売所で生徒が農場生産物・加工品を販売している。	
	伝統野菜の継承	生物生産科・生活科学科	白オクラの純系種を守るため、系統の選抜と育苗を行い農家に苗を提供している。	
徳島	城西 神山分校	森林女子	生活科	神山町の農村生活を調査する中で神山の林業の現状について役場の林業振興を通じて現状を把握した。そこで林業従事者が50人中30人不足していることを知り、神山の林業後継者不足に対するPR活動を展開している。また、地元の神山スギを利用した木工商品の開発をサテライトオフィス・コンプレックスと連携し6次産業化に向け神山町を盛り上げようとしている。
		造園男子	造園土木科	今年度より神山町は、人口減少に歯止めを止めるため「神山つなぐ公社」を設立した。その中で古民家改修や集合住宅の開設などを計画している。造園土木科が日頃学習しているノウハウを地域おこしに貢献できないかと考えたチームが「造園男子」である。神山町と地域と連携して神山分校や神山町を盛り上げる取組を展開している。
	小松島西 勝浦校	環境教育の推進	応用生産科・園芸福祉科	希少植物・絶滅危惧種の保護・増殖活動、環境保全活動としてリンドウ苗、ジンリョウユリの提供、植えつけ、棚田での稲刈りや草刈りを実施している。

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
徳島	新野	イシマササユリ保護活動	総合	阿南市の沖にある伊島だけに生息しないイシマササユリの保護活動に、地元中学校と協力して取り組んでいる。
	三好	ホンシメジの人工培養	環境資源科	菌根菌であるホンシメジの菌床栽培に取り組むとともに、地域特産品として普及活動を行っている。
	那賀	林業学習	森林クリエイト科	本年度新設された学科であり、地方創生を担う林業従事者を養成するべく教育活動を実践している。
	吉野川	押し花アート	生物活用科	地域の植物や農場で生産した花や葉を押し花にして、それを組み合わせて一つの作品にする「押し花アート」に取り組んでいる。身につけた技術を生かして地域での展示・制作体験会・商品の販売等を行っている。
香川	飯山	ひまわり迷路	総合学科	平成17年度より「産業社会と人間」活動の一環としてひまわり迷路の作成し、近隣こども園の園児の招待を行っている。
	石田	棚田と希少生物の保護活動	生産経済、園芸デザイン、農業土木	各科の特徴を活かして、耕作者のいなくなった棚田再生に協力、御田植え祭、希少植物の増殖、石垣積みなどを行い、絶滅危惧動植物を守っている。
		ワクモ被害のコントロールプロジェクト	生産経済科	香川大学農学部、県家畜保健衛生所と連携し、養鶏場でのニワトリの外部寄生虫(ワクモ)のコントロール技術を確立、普及している。
		真清水市場	園芸デザイン科	近隣大型店舗駐車場を借りて、農場生産物を地域住民に販売する真清水市場を6月中毎週定期的に開催し、多数の来場者を集めている。
		真清水動物園	生産経済科	経済動物以外にも各種日本鶏を飼育し保存に協力している。イベントにチンチラやハムスターなどを持ち出し、ふれあい体験を提供している。
		犬を使った獣害対策	園芸デザイン科	サル、イノシシ被害の甚大な果樹園で進入防止柵や捕獲罠の研究とともに、敷地内に訓練した柴犬を放すことで獣害を防ぐ技術を確立した。
レディースファーマーズフォーラム		生産経済科・園芸デザイン科	地元農業委員会・県農政水産部と連携し、地域農業夫人らとフォーラムを開催した。生産系学科1年生全員が地域農業の振興について討議した。	
愛媛	上浮穴	カホンを使った持続可能な森林利用	森林環境課	木製楽器「カホン」の製作を通して小学校での環境教育活動や、地域イベントで演奏活動を行い環境保全活動を推進している。
		クロモジを使った森のハーバルライフ	森林環境課	クロモジから精油を抽出して地域の特産品となる商品開発を行っている。採取・抽出・精油入り石けん作りを行う体験ツアーを実施し、ハーバルライフを実践している。
	野村	移動動物園	畜産	地域施設や地域イベントにおいてポニー乗馬、小動物との触れ合い体験を実施している。
高知	高知農業	農援隊(のうえんたい)	全科対象	農作業の人手が必要なとき、「労力」をお手伝い。トウモロコシやネギの収穫などを手伝っている。
		アンテナショップ	全科対象	毎週水曜日、午後2時から1時間、地元商店街のコミュニティーセンターを利用して、その時期にある本校の農産物を販売している。
	春野	あじさい街道復活	園芸系列	学校前の水路沿い・親水公園等のあじさいの管理をしている。
福岡	遠賀	農場解放	グリーンサイエンス科	幼稚園・保育園・小・中学生対象の収穫体験等。
	糸島農業	「根っこ部」の活動	農業技術科	糸島地区や福岡市西区のアブラナ科植物の根こぶ病の早期防除の研究。
		「はるか」応援隊活動	農業技術科	糸島地区原産「はるか」を使った商品開発による消費・生産拡大の研究。
	久留米筑水	榎並木保存活動	環境緑地科	福岡県の天然記念物に指定されている柳坂曾根榎並木約 200 本を文化財保存活動として剪定管理を地域の保存会と一緒に取り組んでいる。
	八女農業	商品開発 ペットボトル茶「八農高茶(はちのうこうちゃ)」	生産技術科	原料は、全て本校で専攻生が栽培した茶葉を使用している。味や包装、ネーミングについて生徒が全て検討し考案した。大変好評で、平成23年度に商標登録し、地域に愛されるブランド商品として親しまれている。
朝倉光陽	商品開発	食農科学科	地域自治体と連携し地元の食材を活用した地産池消型ドレッシングを開発、ふる里納税の返礼品に採用され、全国へPRした。	
佐賀	佐賀農業	高校生ケーキカフェ	食品科学科	隣接町で毎月 1 回土曜日に、ケーキカフェを開催している。製造から接客まで全て生徒が運営し、反省会を行って改善を図っている。
長崎	島原農業	薬草を活用した新商品の開発	生活福祉科	島原市は日本三大薬草園があり、その薬草を広めるために島原市・地域団体と協力して、薬草を利用したパンを開発している。
	大村城南	田んぼアート	栽培環境部	平成 20 年から田んぼアートを実施しており毎年多くの来場者に喜ばれている。近くの保育園などと年間 10 回程度の交流を図りながら、田植えから稲刈り、飯ごう炊さんまで一緒に作業を行い、食農教育を学ぶ機会になっている。
	西彼農業	地域観光施設における装飾	施設園芸科	今年度再建されたホーランドヴィレッジ(旧オランダ村)の園内の花壇の植栽や観葉植物による装飾活動を行っている。
地域観光施設における実習		施設園芸科	長崎バイオパークにて動物管理の実習を授業に取り入れて行っている。各種の動物に触れることができる。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
長崎	北松農業	未利用資源ダンチクの活用	生物生産科	海岸沿岸に繁茂する厄介なダンチクを肉用牛のエサとなるように発酵させて活用する研究を行っている。ダンチクを給与して肥育牛の枝肉の評価が A3 をとり、かなり良い結果を得ることができた。
		ふるさと納税返礼品作製	食品流通科	ふるさと納税で高額な寄付を集める平戸市からその返礼品を作って欲しいと要望があり、本校で生産している農産物や加工品を返礼品となるように、新商品の開発、パッケージ等を製作して 12 月から発送できるように計画している。
熊本	菊池農業	国際会議での生徒発表	農業科	10 年後の農業を考え、新しい農業を世界に発信する国際会議、ハイブリッド農業に関する国際会議で生徒が日頃の学習成果を発表する。
	矢部	「巻柿」講習会	食農科学科	山都町(矢部地区)特産品である「巻柿」づくりの技術を学ぶために巻柿部会の方を招き、実技講習会を実施。地域の伝統文化に触れるよい機会となった。※ 巻柿: 干し柿を干し柿を何枚も重ね竹の皮とわらで巻いた商品。
		「アジア・アフリカ支援米栽培」	食農科学科	「食とみどり、水を守る県民会議」と連携し、収穫したお米をWFPをとおしてアジア・アフリカに送付している。
		八朔祭	緑科学科	江戸時代中期から行われている八朔祭の大造ものを作製している。材料には竹、杉、シュロの皮などを使用するのが特徴。
		「石橋・石工」体験研修会	緑科学科	山都町のシンボルである通潤橋をはじめとする石橋の保存や修復を学ぶための実技講習会に参加した。
		「山都町特産品プロジェクト」	緑科学科	学校林のスギの間伐材や端材を利用し、山都町の名所等にちなんだ木工品を開発・販売している。
	八代農業	野外活動(カヌー、マウンテンバイク)	グリーンライフ科	学校設定科目「森で学ぶ」「森を活かす」でカヌー実習やマウンテンバイク実習を実施している。また必要に応じて外部講師を招聘している。
	阿蘇中央	草原再生世界農業遺産連携活動	農業食品科	各企業等と連携した褐毛和種の消費拡大を目標にしたメニュー作成。草資源活用による褐毛和種飼育技術の検討。 環境保全を考慮した、イチゴ栽培技術の普及・新品種育成。
		地域連携による商品開発	農業食品科	地域の農産物を活用した6次産業化への取り組み。
		草原再生環境保全活動	グリーン環境科	草原再生協議会と連携し草原再生にむけた輪地切り、輪地焼き、野焼きの実施。
大分	国東	世界農業遺産の活動	園芸ビジネス科	世界農業遺産の地域であることから、特産の七島菌の栽培に取り組んでいる。
	日出総合	キノコ類の菌床ブロック製造販売及び菌床栽培	農業経営科	キノコ類の原木栽培と本校で製造した菌床ブロックの販売や菌床栽培を行い、加工・販売を行っている。
	三重総合	高大連携	生物環境科	学科設定科目においては、県立農業大学校に出向きプロジェクト学習の連携を図り、総合実習においては、年間を通じて大学校へ出向き本校に無い施設・設備の活用を通じて農業への興味関心を高め、農業大学校への進学意識の高揚に努めている。
	玖珠美山	パークマットに関する研究	地域産業科	地域で大量に産出されるスギ樹皮パークの有効利用として、パークを熱圧したパークボードを開発。色々な野菜栽培に可能。地域から評価され、パークマット工場が建設されることになった。
宮崎	高鍋農業	高大連携	フードビジネス科	宮崎大学農学部が育成した「みやだいず」を早期水稲後に裏作として栽培し、ダイズを原料とした商品開発など6次産業化の展開。
		農大連携	全学科	コンソーシアム方式に基づいた連携・共同プロジェクト学習の展開。
鹿児島	加世田常潤	ふれあい農園	有機生産科	近隣の幼稚園・保育園を対象にふれあい農園を開催。サツマイモ苗の植え付け・収穫体験活動を実施している。
		商品開発の取り組み	食品工学科	地元農産物を用いた加工品作りの検討を進めている。また地元農家との連携として加工品のパッケージデザインの研究も行っている。
	市来農芸	かごしま黒豚指定種豚農場	生物工学科	5年連続「かごしま黒豚指定種豚農場」認定。
		鹿児島県畜産共進会	生物工学科	鹿児島県畜産共進会13年連続最優秀賞獲得。
	鶴翔	有害鳥獣肉を利用した加工品開発	食品技術科	地域の農産物被害を起こす有害鳥獣の肉を誰でも食べることができる加工品にしている。
	伊佐農林	石窯を用いたピザ作り体験	農林技術科	校内に設置された石窯を利用して、ピザ作り体験の交流を行っている。
農林館祭り		農林技術科	春と秋、12月に学科の行事として、生産物加工品の販売会を校内または校外で年3回実施している。また、地域の農家や飲食業、JA等の機関にも呼びかけて、協働により行っている。会の企画を農業クラブ役員が行い、全生徒が一人一役の係を分担して行う。	

都道府県	学校名	活動名	学 科	概 要
鹿児島	伊佐農林	伊佐新米祭り	農林技術科	鹿児島市内で、ボランティア活動を行う地域応援団が、企画して地域の米農家の参加で鹿児島市内で販売会を行う。
	鹿屋農業	6次産業化による地域特産物の活性化	農業科	平成 27 年度にオープンした大隅加工技術開発センターの協力の下、地域農産物であるサツマイモやダイコンなどの加工品開発に取り組んでいる。
		鹿児島県における熱帯果樹の栽培に関する研究	農業科	地球温暖化に伴い、九州南部の温暖な気候条件下で、熱帯果樹の露地栽培が可能か検討している。現在は南大隅町と連携しアボカドの栽培技術について調査研究に取り組んでいる。
		アイガモ有機農法米	農業科	アイガモ農法により、無農薬有機栽培を行い、有機JAS認定米の生産を行っている。また、地元の黒酢生産企業で有機米黒酢の仕込み実習も行っている。
		畜産共進会への参加	畜産動物学科	畜産共進会に積極的に参加し、平成 27 年度全国ホルスタイン共進会では、本校が出品した1頭が「優等賞」を受賞した。鹿児島県内では 45 年ぶりで、高校で育てた牛では初受賞だった。
	種子島	優良系統サツマイモ苗の提供	生物生産科	安納芋の苗(継代培養による優良苗)づくりを生物工学班が行い、種子島産安納芋生産の一端を担っている。